

●水環境・湖沼（4） （2-C-10-4～2-C-12-1）

本セッションでは、湖沼・ダム湖・汽水湖における栄養塩の動態，汚濁負収支，藻類優占化に及ぼすリン濃度の影響，底泥からの栄養塩溶出等に関して，計 6 編の発表が行われた。

1-C-10-4 は，網走湖におけるリン資源の蓄積量とその動きに関して，最近 10 年間の湖心から採取したデータから，リンの物質収支および大量のリンの蓄積があったことを計算した。今後さらに湖心以外のデータを踏まえ因果関係についての解析に期待したい。

1-C-11-1 は，手賀沼で導水に伴うリン濃度の変動が藻類優占化種の変遷に影響を及ぼしていないことを推察した。藻類種の優占種変遷のメカニズム解明に役立つ研究であり，継続の検討に期待したい。

1-C-11-2 は，相模湖流域の窒素濃度と負荷の流入実態について調査し，該当流域の上流域にある発電所や下水処理施設等からの窒素負荷量の適正評価を行い，汚濁負荷要因と特性を検討した。実効性のある流域水源総合保全対策として興味深い結果であった。

1-C-11-3 ダム湖の水深別リン濃度分布と降雨，濁度等の関係から流域から供給されるリン負荷のダム湖水質への影響について解析した。今後ダム湖への降雨量と負荷変動がダム湖の水質への影響の検証が望まれる。

1-C-11-4 は，夏季にアオコが多発する指定湖沼--八郎湖を対象に，干拓地の水文・水管理特性，負荷収支について検討を行い，干拓地の取水量・排水量・降雨量と湖内流出入栄養塩負荷との関係を考察し，干拓地の管理が重要であることを明らかにした。興味深い報告であり，今後の発展に期待したい。

1-C-12-1 は，湖内における内部負荷要因としての底泥からの栄養塩溶出について，水温と DO の変化だけでなく，湖沼水質の塩分濃度の変化によって溶出が異なることが示された。今後，引き続き汽水湖沼における内部負荷要因分析と対策に期待したい。

（国立環境研究所 徐 開欽）